

全道合研 2021

第8分科会 音楽教育のまとめ

山口政世

一 分科会に向けての基調

基調報告では、教育をとりまく状況として、国民の命を軽視し、憲法や民主主義をこわし、科学をないがしろにする現政権の基本的な姿勢を確認しました。

教育に関わることとして、コロナ対策として40年ぶりに小学校の35人学級に踏み出したこと、GIGA スクール構想が性急に推し進められていること、学校行事や日常の実践への影響などの背景と、貧困や「学力向上」の名のもとに過度な競争と成果主義にさらされる子どもたちの状況があげられています。

そんな中で私たちが大切にしたいことは、目の前の子どもたちの状況と思いや願いを正確につかみ、それらに応える教材を選び、子どもたちの心に直接働きかける音楽を、教師も共に楽しむことです。

子どもたちの思いや音楽を自由に表現できる教師との関係、教室の環境をつくりあげていく大切さが確認されました。

二 実践報告～レポート発表

今回は、小学校2本、特別支援学校1本、合わせて3本のレポート提案があった。

レポート1	心配なことは相談してください	山口政世（釧路市立鶴野小学校）
レポート2	手話とともに歌唱を	山本秋恵（七飯養護学校）
レポート3	6年生との音楽	富田暁美（旭川市立東町小学校）

参加者は、司会者2名、共同研究者2名、レポーター1名、一般参加者1名、計6名と、近年では最多となった。半日開催の短い時間だったが、3本のレポート発表・討議と教材を歌うことで、充実した時間になった。

1 心配なことは相談してください 山口政世（釧路市立鶴野小学校）

担任している病弱学級6年生男子1名との学校生活と音楽のレポート。とても繊細なSさんが、担任との信頼関係を深めながら、自分の生活の範囲を広げていく。自分の弱点やマイナスイメージをさらけ出せる安心感と、歌いたくなる教材や教師のはたらきかけを大切

にしている。

レポートの最後で、最近の子どもたちの自己肯定感が以前にも増して低下していることに触れ、音楽だけでなく学校生活全般の「自由度」が年々低下していることを指摘している。

曲「魔法の鈴」 シカネーダー 詩 モーツァルト 曲 林 光 訳

2 手話とともに歌唱を～表現の幅を広げるために～ 山本秋恵（七飯養護学校）

養護学校高等部での音楽の授業のレポート。歌唱では、声を出さない生徒も体を揺らして参加してはいるが、無理のない形で音楽への関わりを増やしていきたいと手話を取り入れた。

サビ部分の盛り上がりに合わせて、歌詞の意味から手話を選んでいる。手話を取り入れたことで、全く声を発しないAさんも表現でき、もともと体を動かすことが好きなBさんは、さらにはりきって表現できた。

動画「With You Smile」 作詞・作曲 水本 誠・英美

3 6年生との音楽 富田暁美（旭川市立東町小学校）

音楽だけ担当している6年生との音楽の授業のレポート。表面的には「落ち着きがない」「やる気がない」子どもたちに、どうすれば音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えられるかと試行錯誤している。

教師が子どもに真摯に向き合うことで、子どもたちの「できるようになりたい」という秘めた思いに気づき、ていねいに関わることで、少しずつ子どもたちの声と意欲を引き出している。

曲「ああ もみの木」 ドイツ民謡 林 光 訳

三 今年度の特徴と来年度の課題

オンラインではあったが、それぞれの録音・録画で教室の様子を知り、それをふまえて討論することができた。どのレポートからも、子どもたちが安心して表現できる環境と意欲的

に取り組める教材を用意する教師の仕事が読み取れた。

また、討論では職員同士の連携と協力の大切さ、教師の価値観で子どもを見るのではなく、子どもの表現をありのままに受け入れる大切さとともに、コロナ禍で「声を出すこと」「自由に表現すること」が難しくなっていることへの危惧も共有された。

分科会の最後に、参加者みんなで教材を歌うことができた。時差が生じてしまうので、運営者以外はマイクオフをお願いした。楽譜だけではわからない「音楽そのもの」を共有できて良かったと思う。

課題としては、申し込みのあった参加者には事前に楽譜をデータで送信できたが、当日の参加者のための楽譜の画面共有が上手くいかなかったことがあげられる。